牧師所感：　　敬老の日が病院に入院の日

日本国には、「敬老の日」という祝日が、設けられている。

「敬老の日」という文字だけを見ると 日本国は 老人達を 大切にして敬う国の様に思うかもしれない。だが 時代を経るに従い、その良き敬老思想が 段々と希薄になって 廃れて来たので、これではいかん と言う危機感で 考え出したのが、敬老の日の制定である。詳しく調べた訳ではないが、人々から伝え聞いたのが、以上の敬老の日の制定の意味である。筆者が思うのは、歳を取って見ると、敬老の有難さが 身に染みる。

さて、筆者は 今年（2024 年）で 91 才を生きるが、一年前から 右腕の付根から 左手の指先まで 痺れが伝わり、今に至っている。

私は 敬老の日（24．9．16）を前に 体調が優れず、日々の生活を営むにあって、死を覚悟しながら、主の道を進んだ。私にあって 1 日 1 日は 恵みの日として生きる日々であった。

私が苦しむ病は、実に多く 恥ずかしい話だが、今から 4,50 年ほど前に くも膜下出血によって 東京附属医科大学病院に入院した経験を持つ。

それ（入院）以来、血圧を下げる薬を今も 飲んでいる。また 前立腺肥大による 治療の為の薬、老人性便秘等、数えれば切りがない。

しかし これらの病と戦い乍ら 召されるまで 牧会に務めている。只 長生きをしていること（91 才）で、筆者を 健康な老人として 扱って下さっている。有難いことで 感謝している。

さて 前にも述べたように、めでたいと思う人々が多い中で、職務を解かれて 隠牧会（隠退牧師）会員となった 牧師・宣教師（男女）が 4,50 人は 加入しておられる。

ところで 多年、筆者と殆んど同じ年令を生きる私の同僚 東京希望教会（在日大韓基督教）名誉牧師 金 鍾基牧師（86 才）が、敬老の日を少し前にして、隠牧会の同僚達に 次の短いメッセージを残している。

メッセージ

同僚の牧師の皆さん、全て 感謝します。私は この世を去る準備を よくしております。

皆さまは ゆっくり 熱心に生きられてから 来られて下さい。その間 有難かったです。

2024．12．

さて 9 月 16 日の敬老の日を前に召された。筆者も 9 月 4 日に 体調不良の為に 千葉県 四街道 徳洲会病院に入院して 敬老の日を病院で過ごして 退院して下さいと 医師から頼まれた。終わりに、金 鍾基牧師と筆者は、牧師を始め、皆様のお祈りを受けて加療中、金 鍾基牧師は 9 月 10 日 主なる神に召された。哀悼する。筆者は まだ生きている。

金牧師よ！もう少し 主の為に働いてから 参ります。